

会議名	アンサンプルホーム伊那 下新田エリア地域連携推進会議
日時	令和 7 年 10 月 22 日(水)
場所	アンサンプルホーム伊那第 1 号棟
参加者(敬称略)	民生委員、伊那市福祉課、利用者代表、保護者代表、管理者 サービス管理責任者、施設長

◆議題

1. 開会のあいさつ:施設長

2. 出席者紹介:施設長

3. アンサンプルの活動の紹介(パンフレットを配布):施設長

施設長:平成 17 年の 5 月から開所し、アンサンプルホーム伊那第 I も同じ時時期に開設をした。今年度で 20 周年を迎え、10 月 12 日に 20 周年の感謝祭を行い、たくさんのお客さんにご来場いただいた。アンサンプル伊那開設当時は、20 名定員の施設だったが現在では、登録数でも 129 名、その 7 割の 81 名の利用者がグループホームを利用して生活している。

→アンサンプルのパンフレットを使用して説明を行う。

○現在の状況

施設長:現在の利用相談では上伊那圏域にとどまらず、木曽圏域や松本圏域、諏訪圏域からの利用相談が後を絶たない状況。特に障害が重い方については卒業後の行先が見つからないケースが多い。強度行動障害の利用者の方、特に物を壊してしまう、他害をしてしまう、排泄の自立が難しいそういった利用者の方は特に利用先がないことや断られるケースが多い。アンサンプルではなかなか行き先が見つからないケースも含めて困っている保護者や本人のために自分たちのできる限りの中で方向性を探ってきた。特段、利用者の勧誘など行ってきたわけではない。自然な流れで現在の利用者の数になってきたと思う。

4. グループホームの具体的な運営状況について:管理者

管理者:伊那のグループホームは現在 10 棟ある。下新田に 3 棟、大萱に 4 棟、みのりやに 3 棟ある。来年の 4 月に改めて 11 号棟を建設する予定である。基本的には日中、利用者のみなさんが仕事から帰ってきたあと、アフター5から翌朝のまでの時間の生活を支援する場がグループホームである。入浴や食事、時に排泄。または日中の悩みや相談ごとなど仕事としては多岐に渡る。それ以外でも、工作のイベントや体育館で運動をするなどを計画して楽しめるように工夫も行っている。その利用者にあった環境を作れるように対応している。

5. 利用者の生活について:利用者

利用者:→（生活の流れについて話をする）

一番、楽しいのはみんなと話をすることです。グループホームで嫌だなとか大変だなとか感じることは特にありません。

伊那市福祉課:余暇時間はテレビや電話で楽しんでいると言っていたが電話は誰としますか？

利用者:カフェの利用者の人と電話したりします。

保護者:自分の子供は、飛び出しもするし他者に迷惑をかけてしまう子供であり、唐木さんがとてもしっかりとした受けごたえが出来るのでびっくりした。

民生委員:先ほど話の中で「月プロ」というワードがありましたがどのようなことですか？

利用者:月曜日の日にみんなでドライブに行ったり、カラオケをしたりするイベントです

施設長:補足として、本来アンサンブルの日中は火曜日から土曜日までだが、月 2 回ほど午後からでてきて、仕事ではなくレクレーションを行う活動がある。

サービス管理責任者:お仕事、大変かもしれませんが仕事の疲れはとれていますか？夜は眠れていますか

利用者:はい。大丈夫です

サービス管理責任者:朝食は美味しいですか？

利用者:はい、美味しいです。

6. 保護者からの感想や意見

保護者：今から 18 年前からアンサンブルを利用している。現在 36 歳になる。今まで本当に飛び出しや他の人に迷惑がかかるようなことを行ってきた。アンサンブルや家から飛び出しをしてしまうことも何度となくあった。その度に事故なども覚悟してきた。それでもアンサンブルに通う中で、徐々に慣れていき落ち着いて過ごすようになり、自分からグループホームに入りたいという気持ちになった。今でも他の人に迷惑をかけるような行為はするが、少しずつ落ち着き、今では野外センターで過ごせるようにもなった。職員の方の支援で、ここまで過ごせるようになったので感謝しかない。ただ、やはり「親亡き後」という問題はどのようなだろうという不安はある。自分が先になくなった時に自分の子はどうなるのだろうという気持ちはある。それ以外の心配はないように感じる。

伊那市福祉課：現在のアンサンブルでの生活について、保護者としてはどのように感じているか

保護者：最初は飛び出しや迷惑をかけてしまうようなことがたくさんあったが本人が落ち着いて過ごせるようになってきた。

伊那市福祉課：現在、保護者の方がいないことでの親なき後での問題とかあるのか？

施設長：現在、高齢で保護者が亡くなってしまうケースはほとんどない。様々な理由で既に保護者の方がいない、または施設に入所し実質的な養育に携わっていないケースはあるが、そういった方は帰る場所もないのでアンサンブルのグループホームが家庭となり、金銭管理もアンサンブルで行ってる。

管理者：保護者さんの息子さんはおそらく、週末すぐにアンサンブルのグループホームを利用したいという要望はないように感じるが、週末はどのように家庭で過ごしているのか？

保護者：帰宅したときは、表情もよく過ごしている。自分の好きな音楽を聞いて過ごしているということで、家だとのんびりと過ごしているので、アンサンブルの生活だとそれなりに時間で動いているのでやっぱり違うのだなと感じている。

民生委員：ずっと家にいるというのは保護者にとってもまいてしまうのだろうと思う。やはり、グループホームがあり、保護者も助かっているのではないかと思う。パンフレットの収支について、説明を聞きたい。

施設長：(パンフレットの収支について、1つ1つの項目についての説明を行う)

7. 災害対策:サービス管理責任者

サービス管理責任者：先ほども話をしたように、この下新田は三峰川を背にしている。今までも氾濫の可能性もあったりする中で、様々な避難計画やまたそれに付随した避難訓練を行ってきた。実際、避難するとなると、公民館への避難は環境の変化が苦手な人もいるので、実際はマイクロバスでの本体への避難となる。その際の物品や薬など様々な準備を事前にしておくことがあるので、訓練を繰り返す中でブラッシュアップを行うようにしたい。また、地震の避難訓練や火災の避難訓練も同様に年2回ほど行っている。状況に応じて地域の方にご協力をいただくようなこともあるかもしれないのでお願いしたい。

民生委員：災害時ではないが、自分の家で飾ってある額縁が落ちてきて、腕に当たってしまったことがあった。長年飾って、今までなんでもなかったが、今まで大丈夫であっても経年劣化によって、危ないものにもなるのでそういったものの点検は必要。

8. アンサンブルホーム伊那第 11 号棟建設について:施設長

施設長：アンサンブル伊那は地理的な条件もあり、上伊那だけでなく、諏訪、松本、木曽圏域からも利用の相談にくるケースが増加している。なるべく、自分たちで受け入れられる可能性がある方についてはできるだけ、その声に応えるようにしてきた。よって先ほどお話をさせていただいたように現在、10 棟という規模になっている。現在は 81 名の利用者の方が利用している。空き室も数室はあるものの、利用者同士の相性であるとか重度の方であると 1 階でないと支援が難しいこともあり、新規に新しいグループホームの建設の必要性に迫られた。今回、伊那市や大萱区の方にも承諾をいただいて、11 号棟を建設することとなった。現在の 10 号棟の真横に 11 号棟の建設を行う計画。11 月 4 日に入札を行い、それ以降に工事が着工する。

9. アンサンブルホーム伊那見学

下新田エリアのグループホームの見学を行う。

